



「移行から管理まで、手間要らずで安心して、どこからでもメールが使える。企業にとって最適なメールシステムと実感しています。」

株式会社 JCU

情報システム課 課長 荒井 茂治様 (中央)
主任 川淵 悟司様 (左)
主務 黒坂 麻矢様 (右)

導入前の課題

- ・セキュリティ対策のため、縛りが多く、使いやすいと言えない環境
- ・メールデータがクライアント端末に保存されたため、情報漏洩のリスクがあった
- ・ハード障害によりメールが消えてしまうことが多かった。
- ・管理負荷が高かった。

導入製品



導入後の効果

- ・ストレスなく動く、使い勝手がいいメール環境の構築が実現。
- ・共有アドレス帳の簡単管理ができ、業務効率の向上も実現
- ・リーズナブルな料金設定でアーカイブオプションを容易に導入でき、内部統制も簡単に実現。
- ・クライアントメーカーに依存せず、管理負荷が低減。

■ 導入背景

既存システムの運用に縛りが多く、ビジネスに見合わなくなる

株式会社 JCU は 1957 年に荏原製作所の関連会社として設立された、めっきを中心とする表面処理薬品と装置を自動車、建材、水栓金具、電子部品、半導体などの様々な分野に提供する表面処理メーカーです。設立以来、表面処理分野のリーディングカンパニーとして、環境への配慮や新しい処理技術の研究に努め、社会や多様化する顧客の要望に応じてまいりました。以前は荏原グループの一社だったのですが、2003 年に MBO によって独立、2005 年には上場し、現在は荏原グループと資本関係はなく、異なる独自の経営方針を打ち出しています。なお、情報システム課では、主に社内業務システムの企画、開発、運用に加え、社内ネットワークの構築や PC の管理などを担当しています。同社は独立後も荏原製作所で管理するサーバを利用したクライアントメール OutlookExpress (以下 OE) を利用していたんですが、地方や海外への出張時のメールの確認には申請して設定済みのサブノートを持って行って SSL-VPN でネットワークを通して接続する必要があり、使いやすいとは言えない環境でしたので、より使い勝手が良く、セキュリティやコンプライアンス、社内統制の点でも効率のいいシステムを模索していたんです。



■ 導入経緯

紛失・盗難により情報漏洩リスク、データの肥大化により障害が多発

一セキュリティ面で万全を期すのは理解できませんが、サブノートを持ち歩くということは、その紛失や盗難による情報漏洩のリスクが高まりませんか？

そうなんです。本格的にメールシステムの刷新を考えたのは昨年に入ってからなんですけど、今更 POP などを利用するクライアントメールを採用する気はありませんでした。個々の PC にメールの内容が残らない Web メールの方が安心だと思っていましたし、当初からサーバの管理まで依頼できる SaaS 型の Web メールしか検討していませんでした。

一ということは、まずクライアントメールでは不都合を感じていた、ということでしょうか？

社内でのメールは、従来使用していた OE は、マイクロソフトが将来的にサポートを終了することは分かっていたので、別のシステムに切り替える必要があることを認識していました。もっとも、そんなソフトベンダー側の理由以前に、社内でのメールソフトの使われ方の方に問題を感じていたんです。

多くの人が文書などのデータはサーバに移したりバックアップを取るなど気を使っているのですが、メールは利用者の分かりにくい場所に自動保存されているためか、あまりバックアップなどを気にせずデータを溜め続けてしまうのです。これには色んなリスクがありまして、データ増大によるソフトウェアのトラブルやハードウェアの故障でメールデータが消えてしまうことが多々生じていました。

対応策として社内にはバックアップを促す警告のメールを流したりしていたのですが、メールはもはや電話と同じで普通に使えるものという認識が強く、なかなか浸透してくれなかったのです。それでいながら電子メールはどんどんクリティカルなものになっています。システム課としても「そういう仕様だから」とか「消えちゃったからしょうがない」とは、心苦しくて言いにくいですから、根本的に仕組みを変える必要があると感じていました。と言っても情報システム課は我々 3 人だけしかいませんから、200 人以上となる全社員のメールシステムを社内管理するのは難しい状況でした。クライアントメールであれば、個々の PC すべてをメンテナンスする必要に迫られます。だから切り替え時には Web メールにしたい、という考えはかなり前から持っていたんです。

User Profile



株式会社 JCU
<http://www.jcu-i.com>

本社：〒110-0015
東京都台東区東上野 4-8-1
TIXTOWER UENO 16 階

資本金：11 億 7,625 万円
設立：1968 年 4 月
代表者：代表取締役社長
小澤 恵二

■ 選定理由

予想外の速さ、大容量 MailBox と共有アドレス帳機能などを評価

導入の1年前、つまり今から2年ほど前から、新しいメールシステムの選定にあたって検討を始めた頃から「Webメールしかない」と思っていたのですが、実際に色々なWebメールを試してみると別ウインドウを開く時のスピードなど画面上のレスポンスの悪さが気になりました。やはりインターネット上で動いているからなのでしょう動きが鈍い印象で、ウインドウをいくつも開き過ぎると止まってしまうものもありました。最近のPCはレスポンスはいいので、1~2秒の時間差でもストレスを感じてしまいます。そんな部分から、Webメールはまだ時期尚早なのかなと感じていました。

性能面で後戻りすることはできません。使い勝手が落ちるのも避けたいことでした。ところが従来のWebメールのほとんどはAJAXに対応していないので、マウスによるドラッグ&ドロップが使えないなど、OEと同等の使い勝手が確保できていません。これもメールを送受信する際にストレスを感じました。出張時だけ使うならいいかもしれませんが、社内でも出張時でも同じ環境で使えるメールシステムとして1つにまとめたかった、というのがありましたから、妥協はしたくありませんでした。

「CYBERMAILΣ」は一番最後に見たんですが、他とは格段に速さが違うので驚きました。先ほども言った通り、他を見ていたらWebメールはまだ早いのかなという感想だったのですが、ストレス無く動いてくれることで印象が変わりました。デモを動かした時には、あまり速い足回りじゃなかったのに、サクサク動いてくれましたから、これなら「使える」と思えましたね。

—「CYBERMAILΣ」の導入にあたって他に懸念していた問題はなかったのですか？

システム課は3人という少人数で業務を行なっていますので、新しいシステムを導入したことによるトラブルに対応するのは極力避けたいんです。そのため、これまでは新たに導入する場合には、スムーズでリスクの少ない移行を行なうために「実績あるモノ」の中から選んできたので、新しい技術をいち早く導入することには抵抗がありました。しかし実際に試してみて、直感的に使えることが確認でき、技術的な説明を受けても納得できましたので、安心して導入することができました。それに営業の方の対応の良さも、導入を後押ししたと思います。熱心だけでなく、社員の業務に合わせた仕様の変更など柔軟に対応して下さいましたから。

—導入時に検討したメールシステムの機能比較の一覧表を拝見させていただきました。基本的なメールの機能は当然として、この中で特に重視した機能、外せない項目というのはどこでしょうか。

サイバーメールと他社Webメールとの機能比較

	サイバーメールΣ	A社Webメール	B社Webメール	C社Webメール	D社Webメール
1ID容量	20GB	2GB	1GB	50MB	25GB
AJAX	対応	対応(将来的)	対応	未対応	未対応
共有アドレス帳	有り	有り	有り	有り	無し
不在自動返信	有り	有り	無し	有り	無し
返信アドレス別指定	有り	無し	無し	有り	無し
パスワードポリシー設定	有り	無し	無し	有り	有り
一括メール保管	可能	不可能	不可能	可能	不可能
メールアーカイブ	有り(期間内定額)	有り(従量制)	有り(従量制)	無し	無し

※2009年8月当時、比較検討の際に在席ユーザ1名様ご作成

先ほど挙げたAJAX以外では、1IDあたりのサーバーの容量、それと共有アドレスですね。共有アドレス帳は本当に便利です。弊社規模の会社でも社員の入れ替わりが度々あるんですが、クライアントメーカーでは個別に必要なアドレス帳の引き継ぎなど対応しなくてははいけません。共有アドレスなら取引先などの必要なメールアドレスに引き継ぎの手間が要らないんです。みんなが一つのアドレス帳を使っているのは、非常に楽ですね。一人一人の作業としては大したことないんですが、全体として考えると効率的ですし、ウチに問い合わせがあっても、すぐに対応できなければ先方にメールを送る作業が遅れてしまうこともありますから、けっこう重要なんです。

「CYBERMAILΣ」の場合、その共有アドレスでも日本の企業体系に合わせた企業ごとにフォルダで分けたり、名前に振り仮名が入られたり、部署や役職などを意識した作りになっているので、ビジネス上とても使いやすいというポイントでした。

—ということも導入や維持の費用やサーバー容量の点では、必ずしも比較検討したメールソフトの中では最高ではなかったようですが、レスポンスの良さや使いやすさが決め手になった、ということでしょうか。

それと対応の良さ、ですね。他のWebメールは、基本的に海外のメーカーの製品なので、どうしてもパッケージからあまり変更が利かないんです。「CYBERMAILΣ」は国産なので、弊社の事情に合わせた対応もしていただけた。これは選定の時にも、大きな理由になりましたね。サーバーに関して言えば、メールは止められませんか、24時間稼働保証99.9%のSLA制度も、それだけ自信があるなら安心だなと思いました。

—オプションのアーカイブも利用されていますね。

アーカイブは内部統制の点で、記録しておきたいと思っているので、利用させていただいています。このアーカイブの料金も他社が容量に応じて変わってくるのに対し、サイバーメールΣはアーカイブはオプションでしたが料金設定もリーズナブルでしたし、1IDあたりなので、予算が立てやすいのも有り難かったですね。

■ 導入の効果

スムーズに移行でき、業務効率が格段向上、管理負荷が低減

使い勝手はOEとほとんど変わらないのが良かったですと思います。移行の前に配って使ってもらったのですが、操作性が似ているのでスナリ出来たようです。実際に窓口になっているのは黒坂なんですけど、こちらの手間もかかりませんでした。

「そうですね完全移行の半月ほど前から使ってもらいはじめたんですが、ほとんど苦情もありませんでした。」(黒坂様)。

画面のレスポンスに関する苦情もありませんでした。それに以前は、スパムメールはスパムフィルターで勝手に弾かれてしまっていたので、どのメールが弾かれているのかアカウントを持っている本人が分からない状況でした。そのため「来るはずのメールが来ない」ということで、在席製作所のメールサーバー管理者に問い合わせ、該当するメールを戻してもらおうという手間がかかっていたんですが、「CYBERMAILΣ」はアカウントを持つ本人が自分でスパムメールの内容確認ができるので、迅速で確実な対応ができるようになりました。

メールシステムのことをまったく気にしないで他の業務に集中できていますから、問題ないと言っていいでしょう。「CYBERMAILΣ」を選んで良かったと思っています。

「導入当初しばらくは、OEとの使い方や表示の違いで問い合わせも少しありましたが、今ではまったく問題なく、社員みんなが使いこなしてくれています」(川淵様)。

「それと、これまでよりも海外出張の手続きがとても簡単になりました」(黒坂様)。

将来的には海外支社にも独自ドメインを持たせて、メールシステムの統一を図りたいと思っています。そこまで視野に入れられるシステムだ、ということも選定の理由でした。

—確かに将来性も魅力ですね。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。